



子どもを伸ばす教材教具

子ども達が効果的な学習を行うことができるように、教員は、日々、知恵を絞って、いろいろな教材・教具を製作しています。一人一人の子どもの特性や興味関心を踏まえたオーダーメイドの教材教具です。

本校では、毎年、教員が製作した教材教具展を開き、それらを見合って、教材教具作成の力量を高めてきました。

教材教具（特に自立活動において）作成のポイントは次のようなことです。

- 〇〇ができるから、得意だから、好きだから作る
- 〇〇が苦手だから、少しでもできるようになるために作る
- 〇〇という素材を触ったことがないので、素材への接近のために作る
- 自立課題を通してリラックスできるようになるために作る
- 自立課題を通して集中力や持続力をつけるようになるために作る

「TEACCHプログラムに基づく自閉症児・者のための自立課題アイデア集」

中央法規出版より

それでは、支援部にある自作教材教具のいくつかを紹介します。上記のポイントを考えながら、見てください。支援部には、他にもいろいろ教材があります。是非、のぞいてみてください。



【たまなげ】

ボールを投げる時に、ボールを手から離せない子どもがいます。そんな子どもに、物を手から離す動作ができるように作りました。お手玉を握った時のガザガザと言う感触も味わうことができます。



【むしずかん】

虫が好きな子どものために、虫のマッチング課題を作りました。好きな物の課題なので、集中して取り組むことができます。余暇の楽しみにも活用できます。



【くちのかたち】

発音の不明瞭さがある子どもに、どんな口の形を作れば「あ」・・・という音が出るのか、分かりやすく示すために作りました。

自分で選ぶということ



自己選択とは、自分で選ぶこと、自己決定とは、自分で決めるということです。

これらは、子ども達の自己肯定感や自立を育むために、とても重要なことであると言われています。

自分で選んで自分で決めることを子どもに行わせることはとても難しいことのように思えます。しかしながら、日々子ども達の様子をよく見ていると、どんな子どもでも、自分の好き嫌いや自分のしたいこと、したくないことがあることがよく伝わってきます。それをうまく引き出していくのが、周りの大人の役目です。

ここでは、子どもに自己選択・自己決定の力を育てていく上で、ヒントになることをいくつか紹介したいと思います。

① ○と○とどっちがいい？

自分で選択するのが難しい時には、選べる選択肢を提案してあげましょう。

例) おやつは、クッキーとチョコのどっちがいい？

午後からの作業は、仕分けと紙折とどっちをする？

この時に、大人が子どもにさせたいことだけを選択肢にあげていないか、気を付けることが大事です。子どもの思いや気持ちに寄り添った選択肢を提示してあげましょう。



② 結果がどうなるかを予想して、前もって伝えておきましょう。

決めた後、どうなるのか分かったら、見通しを持って、取り組むことができるようになります。

例) ○と○をこれだけの量分けるよ。○枚の紙をこんな風に折るよ。

③ 絵や図、文字の方が伝わりやすい場合は、選択肢の提示を視覚的な方法で工夫しましょう。



④ 自己選択・自己決定と言っても、実現が難しいこともあります。交渉したり妥協点が見い出せたりすることができるようにしましょう。

最後に、

子どもが選択決定したことでも、うまくできないこともあります。そんな時は、子どもの選択がうまくいくように、周りの大人が支援してあげるとよいですね。自分の選択が成功した経験が、子どもの自信へとつながります。